

しつごしょう

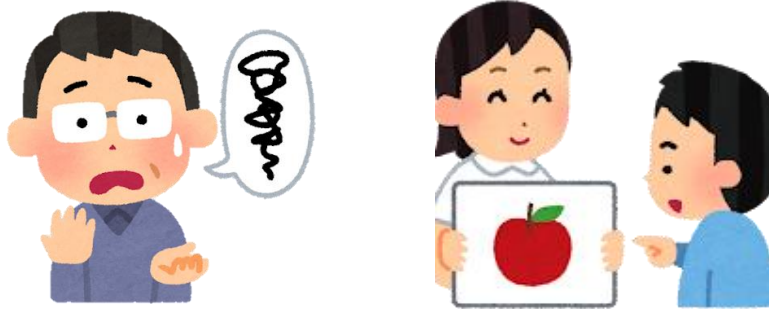
失語症とは 後編

リハビリお役立ち講座
～コミュニケーション障害～

前回に続き、“失語症”について、お役立ち情報をお伝えしたいと思います。

前回、失語症の言語機能として言葉を聞き、話し、読み、書き、計算する全ての側面が大なり小なり障害されると記しましたが、具体的には相手が何かを言っているのか理解ができない。言いたいことがあるのにうまく言葉が出てこない。言いたい言葉を言い間違える。文字が書いてあることは解るが、内容が解らない。解っていても声に出して読めない。文字が思い出せず書けない。などの症状が重症度の差はあるものの、出現することが多いです。

我々日本人が全く日本語の通じない国へ行った時に何か重要なことをどうしても伝えなければならなくなったときのことを想像していただければわかると思いますが、焦るばかりで心的負担がかかり、どうしてよいのか解らなくなると思います。おそらく皆さんは身振り手振りで何とかしようと思われそうですが、手話を獲得した人でも脳の言語機能の中樞が損傷されると“手話失語”という状態になるといわれています。身振り手振りも困難になってしまうため、コミュニケーションの方法が失われた状態になってしまいます。



失語症は損傷された脳の部位や損傷の大きさによって言語症状が変わります。言語聴覚士は患者様やご家族の方の希望に応じて面談や検査を行い、それぞれの症状に合わせたリハビリテーションを実施します。

言語聴覚士
平村 敬寛



コミ白リハビリ
キャラクター
スピオ